



保育園、幼稚園、小学校で、運動会や学芸会などの大きな行事を体験していくたびに、成長していく子どもたち。2 学期末の子どもたちの姿には、頼もしさを感じられていることと思います。

さて今号は、「保幼小連携合同研修会」で交わされていた、保幼小の先生方の充実した話し合いの内容を、特集号としてご紹介します。

## 保幼小連携合同研修会(7月～8月) — 保・幼・小の滑らかな接続に向けて —

下記の表は、区内 9 ブロックで協議した内容をまとめたものです。先生方には、「学級の中で、子どもたちが主体的に考えて行動してほしい姿」というテーマのもと、接続期のカリキュラム作成に携わっていただきました。

今回は、あえて立場を替えて、保育園・幼稚園の先生方には「スタートカリキュラム」を、小学校の先生方には「アプローチカリキュラム」を作成していただきました。作成されたカリキュラムと意見交換の中から、主なものを掲載します。

柱	アプローチカリキュラム (小学校の先生)	スタートカリキュラム(保育園・幼稚園の先生)
幼児・児童の望ましい姿や配慮	<b>生活習慣・運動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○和式トイレを使ってみる。 (排泄後の始末・男子は立って用を足すなど)</li> <li>○食事のマナーを身に付ける。好き嫌いしないで、なんでも食べようとする。</li> <li>○時間を意識しながら身の回りのことを行う。 (持ち物の準備、片付け、着替えなど)</li> <li>○いろいろな運動遊び (固定遊具やマット運動、縄跳など) を楽しむ。</li> <li>○姿勢を保持する。 (椅子に座って話を聞く・立って靴を履く)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の流れが分かり、自分から進んで行動しようとする。</li> <li>○小学校の和式トイレの使い方に慣れる。</li> <li>○食事のマナーを身に付ける。</li> <li>○自分の持ち物を準備し、整理する。</li> <li>○下駄箱やロッカー、机の場所を知る。</li> <li>○身の回りの事を自分でする。</li> <li>○校舎を探索し「どこに何があるか・何をするとところか」を知り、安心感をもつ。(これにより小学生になった自覚が育まれる)</li> <li>○時間を意識して行動する。</li> <li>○運動遊びに意欲的に取り組む。</li> </ul>
	<b>配慮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○和式トイレを使う機会を作る。</li> <li>○時間内に食事や着替えなどができるように時計の針を示し、意識させる工夫をする。</li> <li>○姿勢やバランス感覚を保持できるような運動遊びを取り入れる。</li> <li>○座って活動に取り組む時間も、意図的に取り入れてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休み時間には、トイレにむかうよう声をかけ、習慣付けていく。</li> <li>○生活の流れや身支度の仕方など見通しがもてるように、大きな時計や表示を使って視覚化を図る。</li> <li>○様々な運動遊びが楽しめるようにゲームを取り入れる。</li> </ul>
	<b>豊かな人間性に繋がる人との関わり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶をする。名前を呼ばれたら返事をする。</li> <li>○異年齢児 (年少児、年中児、一年生など) と交流する。</li> <li>○いろいろな友達と関わりながら遊ぶ。</li> <li>○友達と一緒に協同的な活動に取り組む。</li> <li>○集団生活のきまりや遊びのルールを守る。</li> <li>○言葉遣いを意識する。</li> <li>○善悪の区別を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○元気に挨拶をする。</li> <li>○クラスの友達の名前や担任の名前を覚える。</li> <li>○気の合う友達を作る。自分から声をかける。</li> <li>○異年齢交流を楽しむ。</li> <li>○友達や先生とゲームや触れ合い遊びなどを楽しみながら関わりを広げていく。</li> <li>○自分の思いや感じたことを相手に伝える。</li> </ul>
	<b>配慮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言えば助けてもらえる安心感がもてるように大人との信頼関係を作る。</li> <li>○多人数で遊ぶ機会を作る。</li> <li>○いろいろな友達や異年齢の子どもと関わる中で、思いやりや親しみが感じられるようにする。</li> <li>○子ども同士が話し合いながら、考えたり、表現したりする機会を増やす。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな友達と関われるよう、ゲーム遊びの時間を設ける。</li> <li>○担任が聞き上手になり、子どもの話に耳を傾ける。コミュニケーションを図りながら、信頼関係を築いていく。</li> <li>○時には子ども同士、少人数で話し合う機会を作る。</li> <li>○子どもの姿を認め、自信につなげていく</li> </ul>

柱		アプローチカリキュラム(小学校の先生)	スタートカリキュラム(保育園・幼稚園の先生)
幼児・児童の望ましい姿や配慮	確かな学力に繋がる 学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の名前の読み書きをはじめ、文字・数・量・図形に興味をもつ。</li> <li>○時計や時間に関心をもつ。</li> <li>○集中して話を聞く。</li> <li>○自分の思いや考えを話す、表現する。</li> <li>○「やめて」「イヤだ」と言える。またその理由を言葉で説明しようとする。</li> <li>○多様な体験を積み重ねる。</li> <li>○動植物の飼育栽培に関心をもつ。</li> <li>○小学校への通学路を覚える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机や棚、持ち物の自分の名前を読む。また名前を書こうとする。</li> <li>○考えたことや思ったことを文字で表す。</li> <li>○文字や数に興味を持ち、理解しようとする。</li> <li>○学習することへの関心や意欲が高まる。</li> <li>○一定の時間、集中して学習に取り組む。</li> <li>○先生や友達に注目して話を聞く。</li> <li>○思ったことや考えたことを自分の言葉で話す。</li> <li>○わからないことをそのままにしないで、担任に聞く。</li> </ul>
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字の読み方と書き方に触れる機会をもつ。</li> <li>○鉛筆の持ち方の見本を掲示し、鉛筆を使う機会も活動に取り入れてみる。</li> <li>○遊びや生活の中で、身の回りの遊具、教具、用具、道具、自然物を用いて様々な体験ができるようにする。</li> <li>○正しい姿勢が保てるようにする。</li> <li>○失敗も貴重な経験なので、子どもが「大丈夫」と気持ちを切り換えられるように援助する。</li> <li>○人の話を最後まで聞けるよう簡潔に話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもが正しい書き順を覚えられるよう、また、ノートに文字を書き写しやすいう、五十音表を掲示するなどの工夫や丁寧な指導を繰り返す。</li> <li>○集中時間・興味関心の度合を見極め、メリハリのある進め方をする。(絵カードを取り入れる、ゲーム感覚で学習するなど)</li> <li>○子どもの思いをじっくりと聞き、「聞いてもらえた」と実感できるような応答をする。</li> <li>○ゲーム感覚で様々な並び方が覚えられるようにする。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活や遊びの中に学びがあることを伝えていく。</li> <li>○生活習慣(食事のマナー、可食量、早寝早起きなど)について啓発する機会を設ける。</li> <li>○氾濫する情報に惑わされないように、幅広い見方と判断の大切さを伝える。</li> <li>○保護者に子どもの発達を知ってもらえるよう文書や口頭などを通して伝えていく。</li> <li>○「困ったことが言えることは望ましい姿」という理解を保護者と共有する。</li> <li>○家庭と園とで、「自分のことは自分でしよう」とする子どもの意欲を育てたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校での子どもたちの様子を、学級だよりで伝えていく。</li> <li>○連絡帳を通して子どもの状況を保護者と共有する。</li> <li>○子ども自身が忘れ物をしないように持ち物の準備を行うことが大切である。家庭での声かけや確認についての協力が必要不可欠であることを伝える。</li> <li>○保護者に学校公開への参加を求め、小学校の授業風景を見てもらう。</li> </ul>	



#### (交わした意見・感想)

- 保育園・幼稚園と小学校とで、お互いに分からないままやっていることも多かったが、保育や教育を知ることで共通していることも多いことに気付いた。
- 保幼と小のそれぞれの立場から「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」を作成したことによって、お互いの教育内容が見えてきた。
- 保育園・幼稚園時代の「食事中は静かに食べる」「姿勢をよくして話を聞く」といった意識付けは、就学への心構えにつながっていることが分かった。
- 保育園・幼稚園と小学校との交流会があることで、小学校生活への期待も高まっている。益々小学校入学が楽しみになるように支えたい。
- 小学校入学にあたり「時間を意識して行動する」ということが大切になってくる。円滑な小学校生活を行うには、一定の時間内に身の回りのことを自分で行う、といった手立てを覚えることも重要なことである。
- 偏食や小食については、量を加減する、時間内に食べ終えることを目指すなど、保幼小間で同じ対応がなされていることを実感した。(フォーク・箸の持ち方や扱いは就学までに身に付いていると良いのではないか)
- 学校では、名字で呼ばれることが多い。名字やフルネームで呼ばれることもあるということを知っておく。
- 自分の名前は読めるようにしておくとうい。
- 小学校の休み時間中、保幼時代からなじみのある手遊びや鬼ごっこなどの遊び方を発展させ、楽しむ姿がみられている。遊びは学びの原点。経験豊かに成長する中で多様な感覚を育み、主体的に行動しようとする子どもを育もう。
- 小学校教員が保育園や幼稚園を訪問し、保育者は学校公開を参観する、といった機会をもつようにしたい。

#### (まとめ)

保育者・教師が意見交換しながらカリキュラムを作成するというワークを通して、幼児理解・児童理解や接続期に大事にしたいことへの共通認識が深まっていることを捉えることができました。

それぞれの立場で子どもの発達段階に寄り添い、「この時期に子どもの何を育てることが大事なのか」という視点を持ち、保育・教育実践の充実を図っていく事が大切であると感じました。